

第7回日中韓保健大臣会合

エボラ出血熱対策に関する共同声明

我々、中国、日本、韓国の保健大臣は、2014年11月23日に北京で会合し、世界的な健康危機であるエボラ出血熱の共同対応や国際的な取り組みを継続していく必要性を認識した。

エボラ出血熱の発生を受けて、我々は、2013年に締結した三カ国のパンデミックインフルエンザや新興/再興感染症における共同対応に関する覚書や行動計画に基づき、各国のフォーカルポイントを通して、各国における対策計画や対応等の有用な情報・知識の交換を行った。

我々は、エボラ出血熱における最近の経験を通じて、この三カ国の枠組みの重要性について再度認識し、この枠組みを継続し、協力を強化していくことの必要性を再確認した。

我々は、各国のフォーカルポイントや専門家を通じたエボラ出血熱に関する情報・知識の共有や対策・対応における相互協力を強化するために、一丸となって取り組む。

まず第一歩として、2014年11月26日に韓国で開催される日中韓感染症対策フォーラムにおいて、三カ国の専門家によるエボラ出血熱の技術的議題について議論が行われる。